

AGH will play a pivotal role in community-based integrated care system for eastern kochi region.



UOL.18
TAKE FREE

CONTENTS

【特集】 地域包括ケアシステムの中での あき総合病院の役割

- 地域をつなぐ「地域連携室」
- 完全保存版! 東部医療機関等一覧
- お薬のはなし
- 管理栄養士ごはん。



外来診療一覧表

背景ありの表示は再診の予約患者さんのみですのでご注意ください。また、精神科と禁煙外来は完全予約制となっています。医療機関の方へ…金曜日午後の脳神経外科と木曜日午後の神経内科については、初診の予約を受け付けています。下記の診療一覧表は平成30年7月2日時点のものです。学会や緊急手術、異動などにより担当医師が変更となる場合もございます。ご了承ください。

診療科	時間	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
A 外来	外科	午前のみ	前田博教 直木一朗	直木一朗(緩和ケア外来) 山本盛雄	直木一朗	山本盛雄 ストーマ外来	直木一朗 前田博教	
	形成外科	午前のみ			高知大医師			
	脳神経外科	午前	川西裕		中城登仁			
		午後	川西裕		中城登仁		高知大医師(第1・3・5)	
胸部・心臓血管外科	午後			渡橋和政(第4) 高知大医師				

B 外来	内科	午前	森尾真明 的場俊 高知大医師	的場俊 江田雅志 福本光里	森尾真明 児玉佳奈	森尾真明 的場俊 高知大医師	江田雅志 高知大医師 高知医療センター医師	
	消化器内科	午前	大崎純子		高知大医師		大崎純子 高知大医師	
	呼吸器内科	午前			大山洸右		大山洸右	
		午後		高知大医師、禁煙外来	高知大医師			
	循環器内科	午前	桑原昌則	古野貴志	吉本光広		古野貴志	
		午後	高知大医師	ペースメーカー外来		桑原昌則		
	神経内科	午前		吉村公比古(奇数月第2)				
午後					古谷博和	古谷博和(月1回)		
整形外科 (リウマチ科) (リハビリテーション科)	午前のみ	森澤豊 今里滋宏 初診外来	今里滋宏 寺西裕器 初診外来	市川徳和(月1回) 森澤豊 森本暢 初診外来		森澤豊 塩田尚史 初診外来		
血液内科	午前					砥谷和人		

C 外来	小児科	午前	北村祐介、前田賢人	北村祐介、前田賢人	北村祐介、前田賢人	北村祐介、前田賢人	高知大医師、前田賢人	
		午後 診察14時30分~ (受付14~16時)	北村祐介 前田賢人	乳児健診	北村祐介 高知大医師(第3水曜) 前田賢人	予防接種 高知大医師(第1木曜)	高知大医師(16時まで) 前田賢人	
	あっぷるクリニック	午前のみ			前田賢人(予約初診)			
	小児外科	午後		大島 雅之(第1・3・4)				
耳鼻咽喉科	午前	西山正司 高知大医師		西山正司 (受付10時まで)	西山正司 (受付10時まで)	西山正司 高知大医師		
	午後	西山正司	西山正司	西山正司		西山 正司		
皮膚科	午前	廣瀬康昭	廣瀬康昭		廣瀬康昭	廣瀬康昭		
	午後(受付13~16時)			廣瀬康昭				

D 外来	泌尿器科	午前	安田雅春	応援医師	安田雅春、高知大医師	応援医師	応援医師	
		午後	安田雅春	応援医師	高知大医師	応援医師	応援医師	
	産婦人科	午前	岡田真尚 樋口やよい	岡田真尚 前田長正(受付11時まで) 樋口やよい	岡田真尚 樋口やよい	岡田真尚 がん検診外来 (樋口やよい)	岡田真尚 高知大医師	樋口やよい(第2・4)
	午後 (受付14~15時30分)	岡田真尚 樋口やよい 母乳外来	1カ月検診 母乳外来			岡田真尚 母乳外来		
眼科	午前(受付11時まで)	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄		
	午後 (受付14~16時)	吉田和之 高橋政雄		吉田和之 高橋政雄	吉田和之 高橋政雄 福島敦樹(月1回)	吉田和之 高橋政雄		

E 外来	精神科	新患	津田敦		村上洋文	佐々木雄志	峯瀬正祥	
		再診	峯瀬正祥 佐々木雄志	津田敦 村上洋文	佐々木雄志 峯瀬正祥	佐々木雄志 峯瀬正祥 村上洋文	峯瀬正祥 津田敦 村上洋文	

外科	脳神経外科	内科	消化器内科	呼吸器内科	循環器内科	整形外科
前田博教 直木一朗 山本盛雄 中城登仁 川西裕	的場俊 森尾真明 久武加奈 江田雅志 福本光里	大崎純子 大山洸右 古野貴志 桑原昌則 吉本光広 倉岡駿太郎	森澤豊 今里滋宏 塩田尚史	寺西裕器 森本暢 前田賢人 北村祐介 西山正司 廣瀬康昭	安田雅春 岡田真尚 樋口やよい 吉田和之 高橋政雄	神元裕子 田村泰治



地域包括ケアシステムの中での

AGH will play a pivotal role in community-based integrated care system for eastern Kochi region.

地域での医療・介護・福祉・保健の連携体制づくり



地域包括ケアシステムとは、高齢者の方が住み慣れた地域で医療や介護、生活支援を受けられるように、市町村が中心となって「住まい」「医療」「介護」「生活支援」「介護予防」の5つのサービスを包括的に提供しようというものです。この中で中心となるのが市町村に設けられている「地域包括支援センター」。地域包括支援センターのアドバイスのもと、一人一人の高齢者

に合わせて最適なサポートが提案、計画されます。また医療に関しては、かかりつけ医のドクターと中核病院医師とが連携して対応します。この際にも包括支援センターとの協力が重要です。高齢者に介護の必要性が出てきた時には、地域包括支援センターに一度ご相談されてみてはいかがでしょうか。

「地域包括ケアシステム」の受け皿、県立あき総合病院
あき総合病院は東部二次医療圏の中核となる病院、すなわち「地域包括ケアシステム」でのまさに受け皿です。当院には圏域内からさまざまな病気やケガの患者さんが来られますが、高齢の方が多く、病気が一つだけでなく、くつもお持ちの事が多いです。そこで総合病院であるあき総合病院では全23診療科を備え、歯科以外の各病気にはほぼ対応できるように体制整備をしています。一回の受診で複数の診療科にかかれるのは大きなメリットです。

「解決のキーワードは「共同体」？」
人口減少と高齢化がますます進む高知東部地域。前項で挙げた5つの問題は現在も進行しています。「地域包括ケアシステム」構築は東部地域が抱えている様々な問題を解決する最大のチャンスです。今このタイミングで作り上げることがこれからの東部地域を救うことにつながるでしょう。その中で県立病院が果たす役割はかなり大きな部分を占めることになりそうですが、地域とともに歩む病院の仕事として取り組んでまいりたいと思っております。

あき総合病院の役割

いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる2025年。医療だけでなく介護・福祉のサービスが必要とする高齢者の方が一気に増加してきます。人口減少と高齢化が進む高知東部地域では、地域の限られた医療・介護・福祉資源で最大のサービスを提供するため共同体のようなネットワーク形成が必要です。この医療・介護・福祉の人材と地域の人々が共生して、「医療」「介護」「予防」「生活支援」「住まい」のサービスを一体的に行う体制が「地域包括ケアシステム」です。

今回の特集では、国や県が進めようとしているこの「地域包括ケアシステム」の中での県立病院の役割について考えてみることにします。

地域包括ケアシステムの上で、東部地域が抱える5つの問題

1 ますます増える 独居と高齢者世帯
高知東部地域では65歳以上の高齢者人口はすでに40%を超えていて、高知県の中でもっとも高齢化が進んでいます。お元気な方が多いのですが、高齢者同士の世帯や、配偶者や子供さんがいない独居の世帯が増えているのが問題です。その割合はなんと4割。特に高齢女性の独居の方が増加しています。こういった方への生活支援をどうするのか？ また病気の時には誰がお世話をするのか？ 今すぐにも考えないといけない問題です。

2 高齢者の移動力低下
高齢者の方は80歳を超えると車の運転は危なくなり、御主人が運転免許証を返納すると奥さんまでも病院への通

いが難しくなります。病院まで連れて行くことができる若い人がいる方は良いのですが、そうでない方の場合、高知市内の病院まで行くのも大変になってきました。これは高速道路が全部開通したとしても解決する問題ではありません。今後東部地域の中での医療がさらに求められるようになりそうです。

3 医療機関の減少
医療側の問題も深刻です。東部地域では医療機関も年々減ってきており、地域のクリニックが閉院となるケースが増えています。また急性期治療の受け皿となる病院も減少しています。さらに全体の人口が減っているにもかかわらず、高齢人口増加を反映して救急搬送件数は全体ではまだ増加しており、これが病院の負担を増加させています。

4 福祉・介護職員の不足
生産年齢人口の減少で人手不足も深刻

です。特に医療や介護の仕事にはなかなか応募がありません。高齢者を支える中心となるはずの医療や介護施設が人手不足で余裕が全くない状況であり、これは今後さらに深刻になりそうです。今後は経済的な面も含め十分な対策を取らないと「地域包括ケアシステム」自体が成り立たなくなってしまうと考えられます。

5 高齢者の住まい
林業が盛んであった東部地域では、かつて山間地にも多くの人々が暮らしていました。しかし今はその山間地での人口減少と高齢化が進み、支援を必要とする方々が山の奥にいらつやいます。またご病気をきっかけに山から降りてこられても、高齢者用の住宅が少ないため住みに困る方もいます。移動力の少ない高齢者の方のためには、病院に近いところの高齢者住宅が今後さらに必要となってくるでしょう。

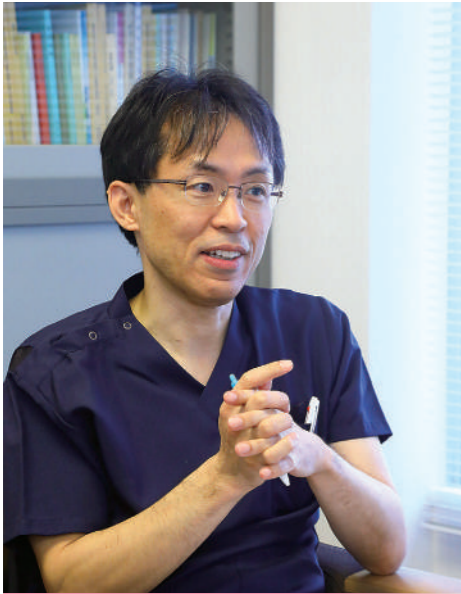


あき総合病院
前田博 院長

「院長に就任して7年が経ちました。病院も変わりましたが、東部の状況も大きく変わってきています。いよいよ県立病院の役割が問われる時がきていると言えます。職員一同頑張っております。」

問題は病気だけではありません。住み慣れた地域で安心して生活することができるときのための仕組みが地域包括ケアシステムです。

まだまだ高齢者人口は増えてくる。



県立あき総合病院 的場俊 医師

平成24年度～高知県立あき総合病院 内科医長
平成26年度～総合診療内科部長 兼 地域連携室長
平成27年度～病院総合医養成センター長を兼職

結構いらっしゃいます。氷山の一角
かもしれないがこの方達の存在
がわかる最初のきっかけが病院
受診とも言えます。

岡田さん：今までどこへ助けを求
めていったらいいか分からなかつ
た独居の方達が、病気やケガで病
院に入院することで道が開かれ
るということですね。

的場先生：病気やケガをするこ
とはマイナスですが、そのマイナ
スをプラスにできる入院にしたい
んです。そうなる前から分かれば
良いんですが、その段階から
のスタートでも遅くはありません
。昨年度に地域でルールを決め
ましたよね。

岡田さん：退院調整ルールです
ね。

的場先生：そうですね。まず一つ大
事なことは、病院に入院したとき
に病院から地域包括あるいは市
町村に必ず一報連絡を入れる、そ
してケアマネさんにも連絡する

ということですね。

岡田さん：入院時の情報共有と
いうのが本当に重要で、そのため
にケアマネさんから利用者本人に
「入院したら私を呼んでね、私に
連絡してね」と普段から言ってい
ただくようにしています。

的場先生：医療機関側では入院
した患者さんについて介護保険を
持っているか確認して、ケアマネ
さんがいる人はケアマネにすぐ連
絡できていると思います。ただ問
題は介護保険をもつてなくてケア
マネが決まっていない人が多いと
いうことです。

岡田さん：この方たちをどうす
るのが実は今回の退院調整
ルールのミソです。独居での退院
に不安のある方、食事の介護が必
要な方、排泄に介助が必要な方、
日常生活に支障がきたしそうな
方などがいますけど、不安要素が
一項目でも当てはまったら安芸市
では包括支援センターか居宅支

東部の地域包括ケアシステムを語る

安芸地域の地域包括ケアシステムを引っ張っている

安芸市地域包括支援センターの岡田さんとあき総合病院の的場俊先生に、
東部地域が抱える多くの問題についてお話しいただきました。

県立あき総合病院

安芸市地域包括支援センター所長

的場俊 医師 × 岡田琴代さん



ワールドカフェスタイルとは？

顔の見える関係づくり困っている事を相談できる場所づくり

多人数の会議ではなく、4～5人単位の
小グループに分かれて、席替えをしながら、
カフェのような音楽の流れるリラックス
した雰囲気の中でテーマについての
議論を進めます。お互いの意見を尊重して、
より建設的な方向に進めていきます。
お互いに顔の見える関係の構
築にはとても効果的です。



地域連携の繋がりはワールドカフェスタイルから？

的場先生：岡田さんにはいつもお
世話になっています。せつかくの機
会なので、私からまずは質問させ
てもらいましょう。私が県立病院
に着任して7年が経ちました。岡
田さんも安芸市包括で5年めと
思います。これまでたくさん課題
があったと思いますが、まずは何
から取り組もうと思いましたが？

岡田さん：最初は病院とケアマネ
さんと包括支援センターでどう
連携をとっていくのか、ほんとに
手探りの状態でした。ただあき
総合病院と市役所を行ったり来た
りしながら、的場先生にも市役所
に来ていただくうちに、ケアマネ
さんも入って来られて仲間がどん
どん増えていきました。

的場先生：今は安芸市包括のス
タッフやケアマネさんたちと年に
2回、ケアカフェでの意見交換を
やっているの、ものすごく顔が

見えて意思疎通が出来る関係に
なりましたね。

岡田さん：このワールドカフェ形
式の集まり（ケアカフェ）ができた
のは、的場先生のおかげです。先
日はリハビリの方たちと安芸市
内の介護事業所に集まってもらっ
て、包括とケアカフェを行いました。
自立支援や医療介護連携の話
ですごく楽しく盛り上がったので
すが、普通の会議ではなかなかこ
んな仲間作りが難しいですね。
このケアカフェはもっともって
やっていきたいです。

的場先生：ケアカフェが一番顔も
見えるし話もできるし、井戸端会
議的でもいいですよ。講演形式に
やってしまうと一言も喋らずに2
時間過ぎるということもありま
すの。

岡田さん：そうですね。ヘル
パーさんもデイサービスの方も医
療者との接点が無いので、それは
それはすごく喜んでいきます。地域
包括ケアシステムではそういった
繋がりが必要だと思います。

地域全体で守る高齢者世帯

的場先生：病院で診療してい
て感じるのは、本当に高齢の独居
の方が多いということですね。安芸
市では独居の方をどれだけ把握
されているのですか？

岡田さん：民生委員さんの協力
で2年に1度調べていますが、ご
本人の生活や健康などが大丈夫



安芸市地域包括支援センター所長 岡田琴代さん

平成26年～平成27年度 安芸市市民課介護保険係長
兼 安芸市地域包括支援センター所長
平成28年度 安芸市地域包括支援センター所長

付けていくという取組みをされ
ているわけですね。

今日1つ見えたのは、ケアカフェ
で民間のリハビリ職の方とあき
総合病院のリハと合体させたり、
民間の栄養士さん達にも入っても
らうところの栄養士さんと一緒に、
地域の栄養をどうするかを考え
ていくケアカフェ形式にしていく
のがいいんじゃないかと感じまし
た。

岡田さん：ぜひぜひ、お願いした
いです。

的場先生：それと、私は歯科の先
生方と連携して口腔ケアを行
いたいと思います。歯科衛生士さん
と歯科の先生。どうやってあき総
合病院と一緒に連携していくかと
いうところを今後は一歩進めてみ
たいなと思います。

岡田さん：そうですね。実際嚥下
障害があつてすごく困っている方
がいて、ケアマネさんもヘルパー
さんも困っていたり、食べること

かどうかを把握するのはとても
大変で、ご本人からSOSが出な
いとなかなか難しいのです。

的場先生：また安芸市はエリア
が広くて深いため独居の方が何
をしているか分からないですね。
岡田さん：実は最近、移動販売の
方が協力してくれて活躍してい
ます。先日移動販売の方から心
配な高齢者の情報を連絡したた
き、保健師に緊急で訪問したとい
うこともありました。

的場先生：民間による移動販売
ですか？

岡田さん：そうですね。福祉の心が
ある素晴らしい方々がやっていま
す。曜日を変えて安芸の街をぐる
ぐる回ってくれています。

的場先生：そんな方が活躍して
いるのですか？ 知らなかった。

岡田さん：包括支援センターでは、
独居の方で食事に困っている方が
いらっしゃる場合、移動販売の方
に電話して「困っている方がいる
ので行ってくださいませんか？」と
お願いをするという訪問してくれま
す。そういう力を活用しています。

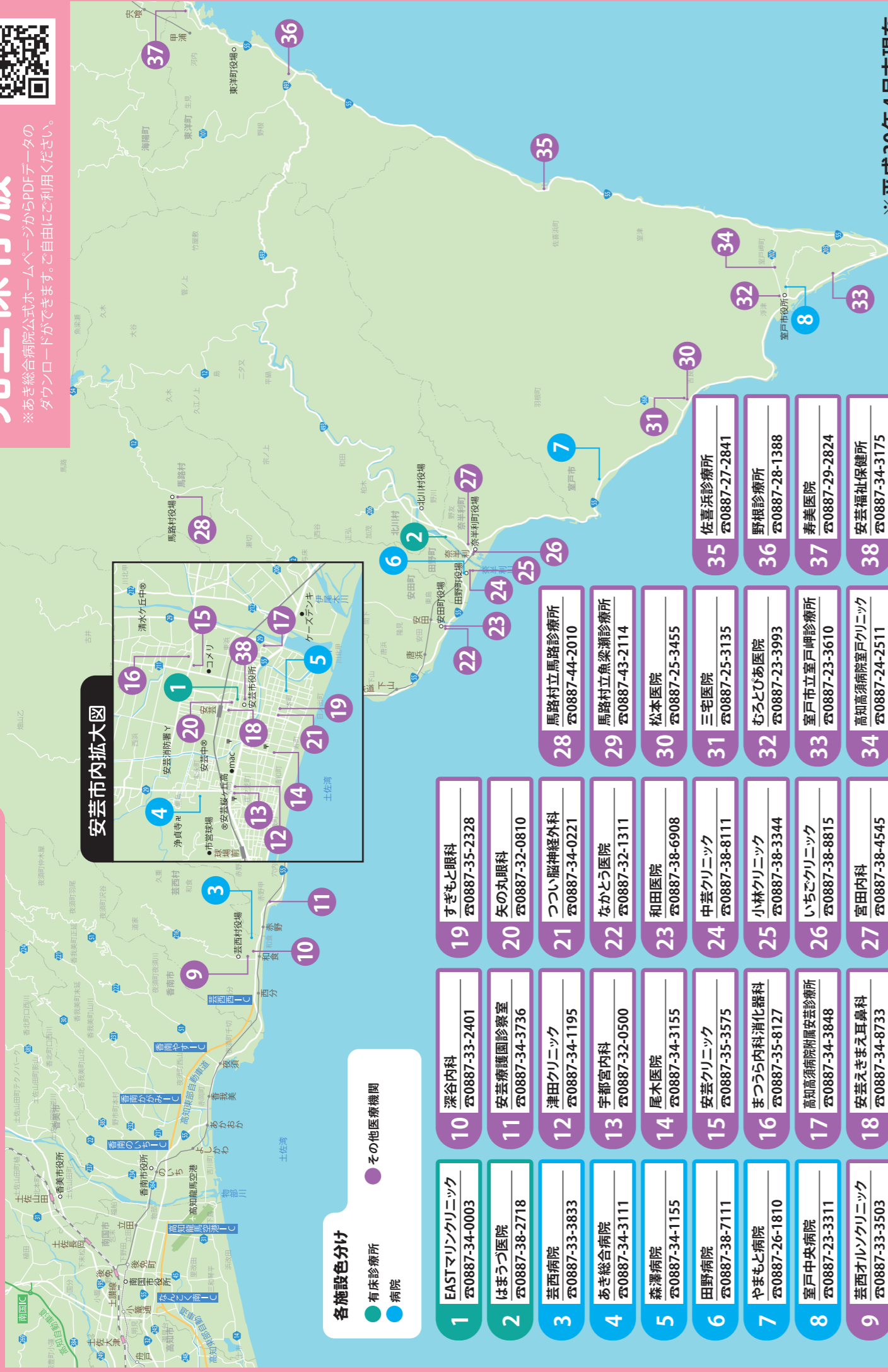
病気やケガでの退院調整ルールが支援のきっかけに

的場先生：そういった意味ではま
さに地域全体で高齢者を守って
いくという感じですね。実は医療や
介護の網に引っかけられないの中
に、ちょっとしたケガやトラブル
で弱ってしまうギリギリの方達が

や口腔ケアについては医療も介護
もまだまだこれから課題がある
なということを気付かせていた
だきました。もつと歯科の先生や
歯科衛生士さんと繋がって一緒に
考える場ができたのももつと
何かできるなど最近それが分かっ
てきました。

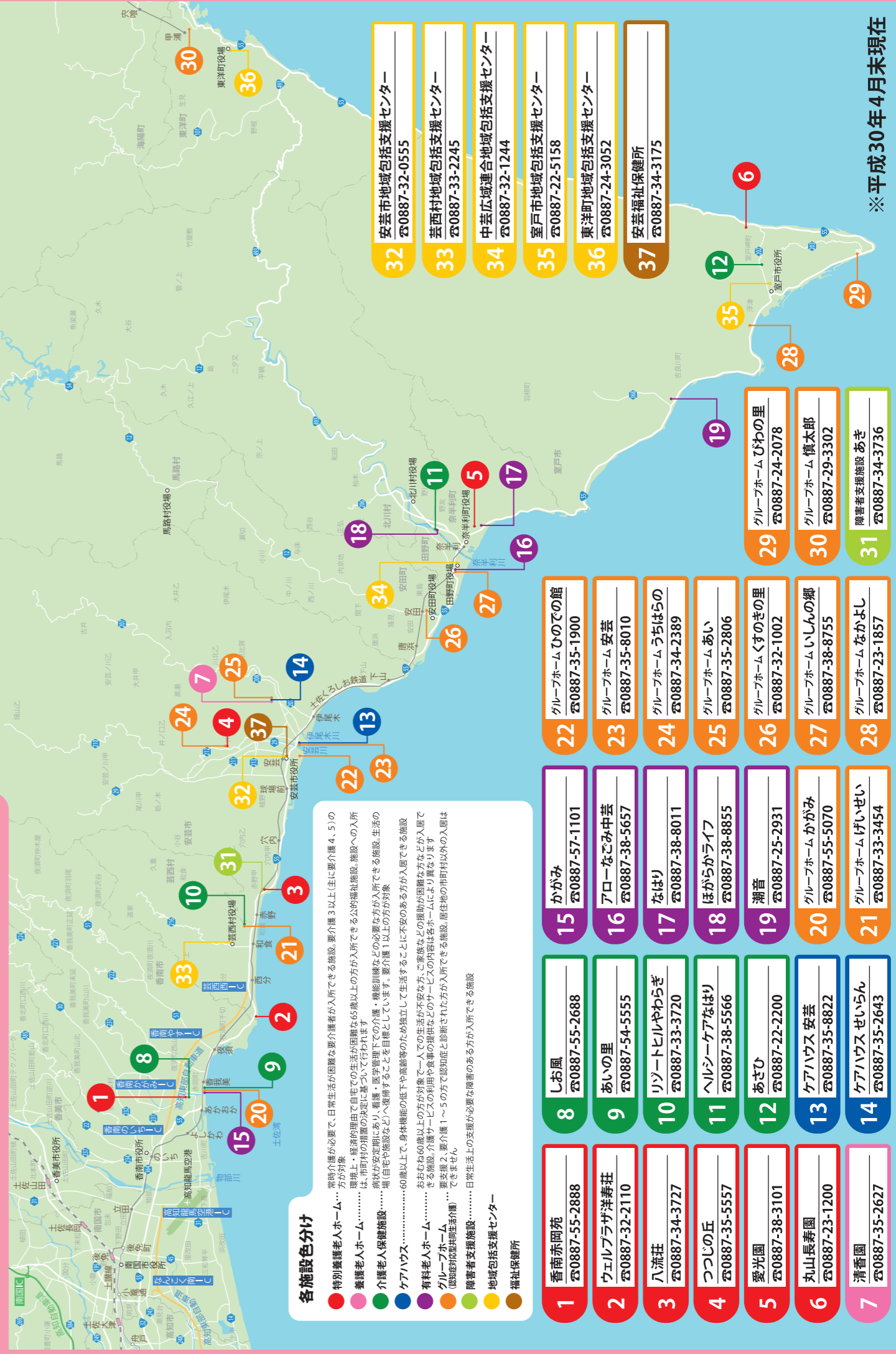
的場先生：医療政策、福祉、保健
の全体の施策の中で地域包括ケ
アシステムを進めていくためには
多職種連携を含めてももう少し
我々が地域社会に出て行く形を
進めた方が良さそうですね。
一緒に取り組んでいきましょう。
今日はどうもありがとうございました。

※あき総合病院公式ホームページからPDFデータのダウンロードができます。ご自由にご利用ください。



※平成30年4月末現在

高知県東部 その他施設一覧表



※平成30年4月末現在

地域包括ケアシステムの中でのあき総合病院の役割

AGH will play a pivotal role in community-based integrated care system for eastern Kochi region.

各担当の入院・外来患者さんの状態を把握し、またお互いに困っている事などを共有することで患者さんへの支援を早期に行い解決できるように毎朝地域連携室スタッフ全員でカンファレンスを行っています。



地域連携室では、スタッフが丸となって、課題の解決に向けて業務を行っています。

カンファレンス
モーニング



あき総合病院では、それぞれの診療科のスタッフが定期的にカンファレンスを行うことで、患者さんの状態や課題などを共有し、医療だけでなく、介護やその後の生活に役立てられるようにしています。



各病棟でそれぞれの診療科が日時を決めて行っており、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど患者さんに携わる様々な専門職が集まり、入院患者さんの病状把握や今後の方針についてカンファレンスを行っています。

多職種合同
カンファレンス

ちいきれんけいこんだんかい 地域連携懇談会 [ちれんこんの開催]

ちれんこんとは?

地域包括ケアシステムを実現するには、地域の様々な関係者が横のつながりを持つことが必要です。そこで、地域連携室では高知県東部エリアの、医療、介護など関係者に集まっていたいただき、懇親を深める「地域連携懇談会」を行っています。これにより、今までにはなかった連携が可能となり、患者さんの生活に寄り添った細部に渡るケアが少しずつできるようになってきました。今後も定期的に行い、地域の連携を図りたいと考えています。第一回は2014年に、第二回は2017年に行われそれぞれ約180名の関係者が参加しました。



生活・医療・介護・予防まで、医療だけでなく
包括ケアで地域をひとつに!

あきぐんネットとの連携 (社団法人高知県安芸郡医師会)

安芸郡の医療圏に合った地域包括ケアシステムを構築するには、医師会と市町村との連携が重要になります。在宅医療の充実、在宅看護の充実、訪問看護の充実、災害対策、看護師不足対策などを行うため、高知県東部の地域性に合った地域包括ケアシステムを構築していくためにも「あきぐんネット」との交流を促進しています。当院は毎週火曜日に院長コラムや休診情報、イベント情報などをメール配信しています。

地域包括支援センターとの連携

患者さんの入退院や転院また在宅療養含めて、地域連携室の仕事は外部との調整が大半を占めます。中でも地域包括ケアシステムの中心となる地域包括支援センターとの連携はとても重要です。普段の業務だけではなく、ケアマネさんとの連携やケアカフェでの意見交換など包括支援センターとの連携はなくてはならないものとなっています。



MSW:医療ソーシャルワーカー
PSW:精神科ソーシャルワーカー

PSW笹岡

PSW南

MSW宮崎

MSW横山

Ns藤崎

Ns安岡

Ns今西

Ns山下

事務 濱田

地域連携室

生活・医療・介護・予防まで、
医療だけでなく包括ケアで地域をひとつに!



できるよう、患者相談室の医療ソーシャルワーカーとも協働しながら、地域の関係機関と連携して支援しています。



患者さんの退院調整を病棟と連携して行なっています。退院後も医療や介護が必要なお患者さんには、継続してサービスを受けることができます。

地域連携室では、医療機関からの紹介患者さんの予約受付や、受診予約日の診療科へのご案内、ふれあい医療教室の運営などを行なっています。また、退院される

地域連携室は
病院の顔

市民公開講座「ふれあい医療教室」



県立あき総合病院が、年に3回開催している市民公開講座「ふれあい医療教室」。あき総合病院となってから、今年で19回目を数えます。患者さんを含め住民の方がご興味ある病気のお話や健康問題など、専門のドクターがわかりやすく解説していきます。また年に1回は室戸市でも開催。これら市民講座の開催も地域連携室が担当。まさに地域住民の皆さんと病院をつなぐ連携を目指しています。



医療ソーシャルワーカー
楠永いのる

気軽に相談ください!

あき総合病院と地域をつなぐ「地域連携室」

管理栄養士ごはん。 Nutrition Manager Recipe

ブルスケッタ

【材料4人分】

- フランスパン -----8切れ
- ニンニク----- 1かけ
- アジ ---1尾分 3枚おろし
- ナス ----- 1本
- トマト -----2個
- モzzarellaチーズ-----1個
- オリーブオイル --- 大さじ1
- レモン汁 ----- 大さじ1
- 塩 ----- 少々
- 青シソ ----- 1/2枚



おやつや、おつまみにもピッタリ!!
高知の食材を活かした、野菜たっぷりブルスケッタ

今回のブルスケッタは安芸で採れたばかりのナスと、夜須のフルーツマトで作りました。普段から食べている地元の食材を使って、ちょっと目新しい献立を立てるのは意外と大変ですが、今回は採れたてのナスを頂いたため、野菜が主役になれるものを選んでみました。大きいマトやナスだと分量通り行かず、余ってしまうこともありますから、フランスパンに乗せずにサラダとして食べても良いと思います。

栄養価 (1人分)	エネルギー	335kcal	脂質	16g
	水分	93g	炭水化物	32g
	たんぱく質	16g	食塩相当量	0.9g

監修：管理栄養士 高橋 俊裕

作り方

- 1 フランスパンは厚さ1.5~2cmにスライスしトースト、ニンニクの切り口をこすりつける。
- 2 トマト・モzzarellaチーズは8mm角に切りボウルに入れてレモン汁、オリーブオイル、塩を加えて混ぜ合わせる。
- 3 アジは3枚におろし、塩を振り一口大に切り、オリーブオイルでソテーする。
ナスは1cm角に切りオリーブオイルで炒めて塩を振る。
これらをボウルに入れてレモン汁を加え全体を和える。
- 4 フランスパンに2、3をのせる。
- 5 青シソはきざんでのせる。

薬剤師さんに聞く
お薬のはなし



2015年の調査によると、日本人の死因の1位はがん悪性新生物となっており、約3.5人に1人は進行がんとなりながら、約1人に1人は治療を要する状態を呈しています。そしてがんの治療と聞いても手術や放射線療法や薬物療法など様々であり、当院の薬剤師がおもに携わっているのは薬物療法となります。

薬剤師は支持療法など生活の質を落とさない治療も考えます

がん薬物療法において注射や飲み薬で治療する場合に大切な事は、その効果のみならず副作用に困ることをできる限り少なく治療を継続することだと思われまます。そのためには生活の質を落とさないように、支持療法と言われる薬物療法があります。例えば吐き気や強い抗がん剤を使う場合には、あらかじめ吐き気を抑える薬を使うようにするなどの方法を副作用を軽減し、日常生活を支障なく過ごせるよう援助できなにかを私たちが薬剤師は考えています。

がん薬物療法について

注射の抗がん剤においては実際に飛散しないのですが、空気中に飛散して吸入してそれを吸い込むことにより、人体に悪い影響があるということが言われています。これを曝露と言いますが、注射による抗がん剤の治療を受けるときに、私たち医療者のみならず投与を受ける患者さんにも抗がん剤による曝露を受けないように心がけています。外来化学療法室と言われる場所において注射の抗がん剤を調製する際には安全キャビネットと言われる外に飛散しないように考えられて作られた装置の中でさらに閉鎖式といわれる器具を用いて、患者さんに提供できるように行っています。安全ながん薬物療法的な支持療法の提供は、患者さんが安心して治療を受けて頂く上で必要性が高いものであり、薬剤師も積極的に関与する副作用的な役割も果たしています。

とさないように、支持療法と言われる薬物療法があります。例えば吐き気や強い抗がん剤を使う場合には、あらかじめ吐き気を抑える薬を使うようにするなどの方法を副作用を軽減し、日常生活を支障なく過ごせるよう援助できなにかを私たちが薬剤師は考えています。

外来化学療法室にて安全で的確な薬物療法を提供しています

注射の抗がん剤においては実際に飛散しないのですが、空気中に飛散して吸入してそれを吸い込むことにより、人体に悪い影響があるということが言われています。これを曝露と言いますが、注射による抗がん剤の治療を受けるときに、私たち医療者のみならず投与を受ける患者さんにも抗がん剤による曝露を受けないように心がけています。外来化学療法室と言われる場所において注射の抗がん剤を調製する際には安全キャビネットと言われる外に飛散しないように考えられて作られた装置の中でさらに閉鎖式といわれる器具を用いて、患者さんに提供できるように行っています。安全ながん薬物療法的な支持療法の提供は、患者さんが安心して治療を受けて頂く上で必要性が高いものであり、薬剤師も積極的に関与する副作用的な役割も果たしています。



お薬のはなし担当：薬剤科 野島 一真

私自身もこの高知県東部地域のがん薬物療法において患者さんが「あき総合病院で治療を受けて良かった」「副作用がひどいと聞いていたけどあまりそうではなかった」として目標としては注射とか飲み薬を始める前と同じように生活できたい」と感じてもらえるように知識を深めていき、色々な支持療法や重篤な副作用を未然に防止できるように実践していくことで、患者さんの治療の一助になりたいと思っております。

もしも飲み薬でも注射でも抗がん剤(もちろんそれ以外のお薬でも)でお困りのことがあればお気軽に当院薬剤科にご相談ください。

目標は患者さんご治療前と同じような生活をおくることがあります。

適切にそれらの副作用に対処していくように他職種と協働しています。それらを円滑に実現するために、も気軽に相談して頂けるような雰囲気にしていきたいと考えています。

あき総合病院からのお知らせ

あき総合病院が「地域がん診療病院」に承認されました

平成30年3月9日に、厚生労働省において「がん診療連携拠点病院等」の指定に関する検討会が開催され、高知県立あき総合病院が「地域がん診療病院」に承認されました。

厚生労働省では、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国に「がん診療連携拠点病院」や「地域がん診療病院」を指定しています。当院は、総合病院として救急医療

を中心に、5疾病5事業に力を入れています。今回この中の「がん診療」でも地域の中心的役割を担うことが求められることになりました。

実際、がんの患者さんも多く、当院での治療がこれからはますます必要になります。

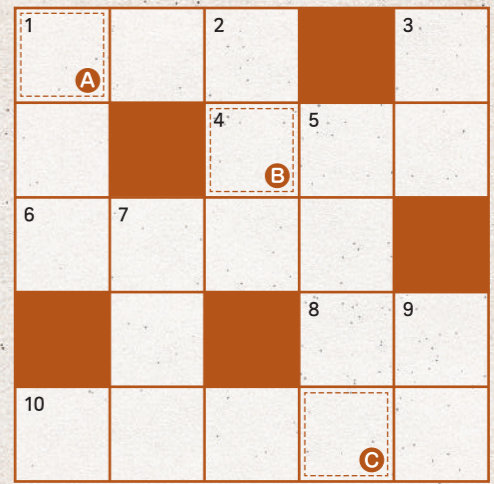
高知大学医学部附属病院と連携のもと、がん診療を進めていきたいと思っております。



- タテのカギ**
- 1 バレンタインにもらう本命○○○、義理○○○。
 - 2 夏のおやつ定番。シマシマ模様。
 - 3 スズメ、アシナガ、クマ、ミツ。
 - 4 泳げ○○○○くん
 - 5 ○○○○○どん、○○○だんご。
 - 6の次。○○福神。
- ヨコのカギ**
- 1 キング、クイーン、ビショップ。将棋に似ています。
 - 4 小動物、○○○こっこ。
 - 6 国の事を決める機関
 - 8 熱帯に生える木。実から油をとります。
 - 10 子どもの頃にみんなでこっそり作った。

答えは裏面です

A B C



クロスワードパズル担当：1病棟 川村 一司

クロスワードパズル